

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 大森康男 先生

一般社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、東北大学 名誉教授、大森康男先生は、平成 29 年 1 月 3 日にご逝去されました。享年 89 歳。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和 4 年 10 月 9 日東京都に生まれ、昭和 29 年 3 月東北大学工学部金属工学科をご卒業され、同年大学院金属工学専攻修士課程、昭和 31 年同博士課程を経て、昭和 34 年 4 月に東北大学選鉱製錬研究所助手に着任されました。昭和 36 年 12 月に講師、昭和 37 年 6 月に助教授に昇任され、昭和 42 年 6 月にや金化学工学研究部門を担当、昭和 45 年 10 月に教授に昇任されました。その後、平成 4 年 4 月の研究所改組により、素材工学研究所素材形態制御研究部門固相制御研究分野を担当されました。この間、昭和 62 年から平成 2 年まで選鉱製錬研究所長、東北大学評議員等を歴任されました。平成 5 年 3 月に同大学を停年退職され、東北大学名誉教授の称号を授与されました。また、引き続き、平成 10 年まで(株)神戸製鋼所常任顧問を勤められました。

先生は、一貫して金属生産工学、とりわけ鉄鋼製錬学並びに製錬プロセス工学の基礎的研究を進められ、卓越した多くの研究業績をもって、この分野の技術の進歩発展に大きな貢献をされると共に、多くの研究者及び技術者の教育、育成に尽力されました。

先生が鉄鋼製錬の研究を主導された昭和 30～50 年代は、日本の産業が急速に発展し、技術的にも経済的にも世界トップレベルまで成長した時代でした。その基盤の一つが、1 億トン超にまで生産量が急増した鉄鋼であり、それは日本の製鉄技術が世界をリードするまでに高められた結果でもあります。そのような時代において、先生は製錬反応の解明のために、熱力学に基づく平衡論的な理論に加え、新しく移動現象論に基づく化学反応速度論やプロセス工学的な手法を駆使した先駆的な研究分野を開拓されました。例えば、酸化鉄の還元やコークスのガス化反応等の気固反応の速度論的研究、有効拡散係数の測定法の研究、新 JIS 法および新 ISO 法の提案、焼結鉄製造プロセスからの窒素酸化物の低減研究、シャフト炉および高炉の動力学モデルの開発など、数多くの研究成果が挙げられます。これらのご研究に加え、冶金反応の熱力学的検討や、X 線マイクロアナライザー等の表面分析法を世界に先駆けて製錬学に導入するなど、当時先端的な多くのご業績があります。このように、先生のご研究は、金属製錬プロセス全般の分野にわたっており、得られた成果は多数の論文として発表されています。とりわけ鉄鋼製錬の分野にあっては、常に指導的立場にあり、国内外から高い評価を受けて来られました。

これらの研究業績に対し、本会より、西山記念賞(昭和 43 年)、俵論文賞(昭和 54 年、昭和 63 年)、山岡賞(昭和 61 年)、西山賞(平成 8 年)が授与され、平成 9 年には名誉会員の称号が与えられました。一方、日本金属学会からは論文賞(昭和 37 年)、功績賞(昭和 48 年)、谷川・ハリス賞(昭和 62 年)が授与されています。また、ISO および JIS 規格の立案作成と国内外への普及に貢献した工業標準化功労者として通商産業大臣表彰(平成元年)を受けておられます。これらの卓越した功績に対し、平成 10 年 11 月 3 日に紫綬褒章、平成 15 年 11 月 3 日に瑞宝中綬章を受章されています。また、本会の運営にもご尽力され、理事、評議員を歴任されると共に、編集委員会欧文会誌分科会主査や鉄鋼工学セミナー小委員会委員長なども務められ、野呂賞(平成元年)が授与されています。

さらに、昭和 61 年から平成 5 年まで日本学術振興会製鉄第 54 委員会委員長、昭和 47 年から平成 3 年まで通商産業省工業技術院日本工業標準規格(JIS)鉄鉱石物理試験方法専門委員会委員長、昭和 61 年から平成 3 年まで ISO 国際標準化機構鉄鉱石国際委員会物理試験分科会国際会議議長、また、平成 8 年から平成 13 年までは鉄鉱石国際委員会議長を務められ、広く鉄鋼製錬分野の学術と技術の発展に大きく貢献されました。

金属製錬プロセス、とりわけ鉄鋼製錬分野のご研究を通して、我が国の学術と技術および本会の発展に尽くされた先生の多大なご業績に感謝し、衷心より哀悼の意をささげ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成 29 年 3 月

日本鉄鋼協会 会長 丹村洋一